ふるさと歴史アラカルト

中津居館跡②　居館内部の様子

中津居館跡で平成20年から継続して行っている発掘調査により、居館が実際に使われていた頃の様子が少しずつ明らかになってきました。

これまでに発掘調査を行った面積は居館全体の約5％にとどまりますが、現地の地下には居館が機能した時代の生活面が良好に残されており、当時実際に使用された土師器・陶磁器の破片、鉄滓、金属製品、木製品などの遺物とともに、居館内部（土塁に囲まれた内側）に配置された施設の遺構が複数確認されています。

代表的な遺構に、大型建物跡（一棟）、井戸跡（一基）、土師器一括廃棄土坑（一カ所）などが挙げられます。大型建物跡は、東西9・6ｍ×南北12ｍの総柱の建物で、その規模は同時代のお寺の本堂に匹敵し、居館の主要な建物の一つとみられます。この建物跡から10ｍ程離れた場所では同時期に使われたとみられる井戸跡が見つかっています。

特に注目される遺物の一つに、直径約65㎝の備前焼の大甕に2万～3万枚とみられる古銭を納めた一括出土銭があります。甕の中の古銭は、97枚毎に中心の穴に藁紐を通した緡銭と呼ばれる当時の流通形態をとどめています。更にこの緡銭50個分（古銭5千枚分）を一まとめにした五貫文緡と呼ばれる高額の流通単位にまとめられたものが少なくとも4つ甕の中に納められており、出土状況から推測して、甕に銭を備蓄していたものが何らかの理由でそのまま残されたとみられます。

これら発掘調査で得られた遺物や遺構から、居館が14世紀前半（鎌倉末～南北朝）に盛んに機能したとみられることや当時の居館内部の様子、居館の主の社会的地位など、中津居館跡だけでなく中世の岩国地域の情勢に関する新たな知見がもたらされています。

※祭祀や宴会で一回だけ使用した素焼きの椀や皿をまとめて一つの穴に廃棄した遺構

土師器一括廃棄土坑

一括出土銭

5月8日(日)まで、岩国徴古館で「中津居館跡発掘調査報告展」を開催中です

岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7－19　☎㊶0452
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)

岩国市　人口・世帯

人口	139,814 人【前月比 － 152人】	男性　66,233 人	女性　73,581 人
世帯	66,350 世帯【前月比 － 52世帯】	※外国人人口を含む（平成28年２月１日現在）	

交通事故発生件数　１月分事故件数 32件（32件）　死者数 ０ 人（ ０人）　傷者数 33人（33人）
※高速道路発生分を除く　※（　）内は平成 28 年累計

広報テレホン　休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス　☎㉓1234

目の不自由な人へ　「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ　☎㉙5016　FAX㉑3337